みんなの文芸

引間豐作選　投稿数21句

春の月穏やかならぬ世を照らす　上日野沢　四方田利男

(評)春の月は、冱えた仲秋の名月と違って昼の霞んだ情景をそのまま引き継いだ恰好で、俗に言う「おぼろ月夜」で月の光も弱々しく、それに映し出される風景は、あらゆる物の輪郭がぼやけて、柔かく感じ、まして東風でも吹こうものなら、まさに古代中国詩人の詠んだ通り「春宵一刻値千金」と謂った風情であるが、掲句の「穏やかならぬ世」とはこの頃の国内の事情や、海外の情勢までが、どこか平静でないので、月までそれを気遣ってくれているかのようだとの措辞に敬服。

歪む字につく溜息や田螺鳴く　下日野沢　高山　ユウ
後ろ手に麦ふむ夫婦すれちがう　皆野　関根　助市
風光る皇居外苑騎馬の列　下田野　藤田　稔
踏まれても起きゐる朝の黄水仙　三沢　新井　民子
娘を送る千鳥ヶ淵に花いかだ　金沢　青木冨佐子
吾が郷に鶯の声しきりなる　下日野沢　江野　鎰子
孫娘婚の近づく花だより　皆野　根岸　詩子
余生とはコップの桜咲き誇る　下田野　藤原　道男
藁囲取れば牡丹の芽は真紅　三沢　沢野　恒平
芝桜友のうどんに誘われて　三沢　横田　龍雲
窓辺にて繕ひ物や菜種梅雨　金沢　山口真千子
雨上がり霧かと思いや杉花粉　上日野沢　小林つね子

中田國太郎選　投稿数19首

僅かなる窪みにたまる湧水を飲み山鳩は木の芽山越ゆ　三沢　新井　民子

(評)殺伐たる今の社会に住む息苦しさから、束の間でもほっと逃れる時を求めて、今月は、自然詠をとり上げた。三沢山塊に住む作者がふと見回すと、澄む湧水を首を振りつつ飲み、ひとしきり浴びた山鳩が、くりくりした目を輝かせて、早春の山を飛び去った。作者は「湧水」と「山鳩」でその感動を焦点化して表現した。早春のすがすがしさを詠んだ秀作である。鳩を詠んだ西行の一首「古畑の岨(そば)の立つ木にゐる鳩の友よぶ声のすごき夕暮」岨―がけ。愛子作、筆跡から故人を偲ぶ真情深し。野口作、孫の姿がありありと浮かぶ。金子作、古里の将来の姿が不安になる平成。

ふるさとを詠みて短歌を残し逝き筆跡慕いぬ兄の忌近し　皆野　新井　愛子
競い合う二人の孫は我先にねこの折り方吾にたずねる　皆野　野口　貞子
昭和初期村から町えの古里は市と合併にゆれ居る平成　皆野　金子善次郎
晴天は嬉し大地に鍬を持ち雨天は楽し趣味の筆持つ　皆野　新井　茂
ものにふれ人に触れゆく心をば短歌に詠みつつ今日を生きいる　金崎　山田　雅子
情厚きこの里に嫁ぎ金婚の記念日迎う花の弥生に　三沢　眞下　杏子
たくさんの乳牛飼いし集落も皆やめたり牛小屋残る　上日野沢　四方田利男
ひとしきり落葉舞おつ吾が庭に天の恵と思いて掃きぬ　皆野　塩田　千代
枯竹を畑にて燃せば勢ひよく花火と紛ふ音こだまする　三沢　新井　叶子
娘は嫁ぎ静けき部屋に雛飾り子孫祈りつボンボリ灯す　下田野　安井　光代
母の日の粗品も喜び身に付けし姑と母の面影偲ぶ　下日野沢　浅見　豊子
本山で先祖の供養写経して京都の朝は日本晴なり　三沢　横田　龍雲

俳句・短歌を募集

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して総務課へお寄せください。

8日必着

1人1句、1首に限ります。

1歳のお誕生日おめでとう

夏輝(なつき)くん

腰区
中　友彦さん
　　渉美さん
ニコニコ笑顔の可愛いなっくん♡
いつも元気いっぱい!!
優しい子に育ってね☆

結娃(ゆうあ)ちゃん

根岸区
横田　隆行さん
　　真美さん
いつもニコニコ笑顔の結ちゃん。
気持ちの優しい子になってね。

涼太(りょうた)くん

駒形区
島﨑　雅之さん
　　絵美さん
涼太1歳おめでとう ◡̈
たくましくて優しい
男の子になってね☆

※満1歳の赤ちゃんを募集します。6月号の締め切りは、5月10日(日)まで。ホームページからも応募できます。